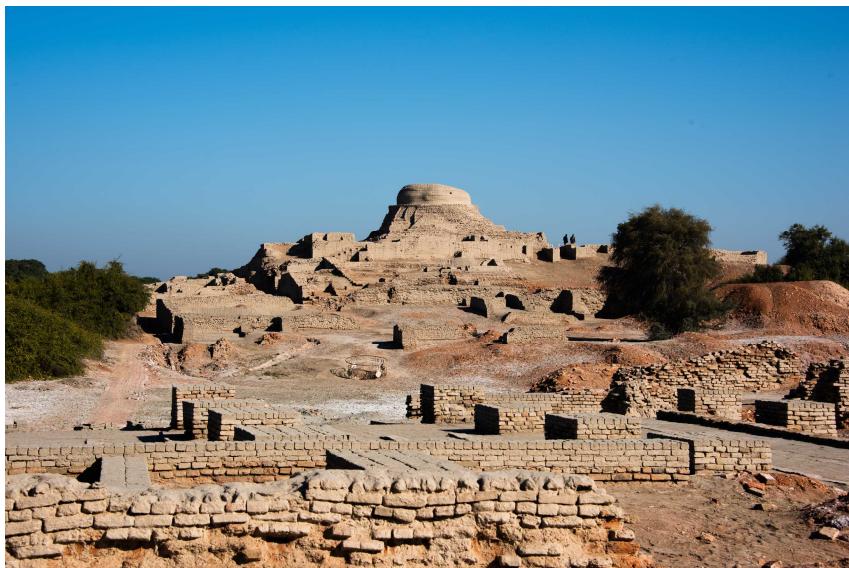


令和7年度 涌谷町文化財講演会



撮影:安部まゆみ／撮影場所:国立民族学博物館



モヘンジョダロの「城塞」区域

【日時】令和8年1月24日(土) 13時 30分～
(開場13時～)

【会場】涌谷公民館 交流ホール
遠田郡涌谷町字下道69-1 TEL0229-43-3001

【参加】申込不要・無料

【演題】古代〈文明〉研究の成果から現代社会のオルタナティブを想像・創造する
——〈自由〉のための〈政治〉と〈文明〉について

【講師】小茄子川 歩 氏 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・特任准教授



狩猟採集生活 ▶ 農耕革命 ▶
人口増 ▶ 貧富の差の出現 ▶
都市の誕生 ▶ 國家の誕生

この「進歩史観」は
正しいのか?

インダス、エジプト、アンデス、西アジア、古代イラン、ペルシア湾岸、オセアニア、メラネシア、北海道、古墳時代etc.——気鋭の研究者たちが、我々の人類史観を激しく揺さぶる! 「万物の黎明」の訳者、酒井隆史氏も寄稿。

およそ4,500年前に、現在のパキスタンとインド北西部を中心とする地域に興亡したインダス文明。

そこには、世界遺産でもあるモヘンジョダロやハラッパーなどの大きな古代都市はあるものの、王や武器、強力な宗教などが存在していました。

古代《文明》社会研究の最前線から、現代社会を考える文化財講演会を開催します。

小茄子川歩（こなすかわ・あゆむ）

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・特任准教授
1981年宮城県生まれ、涌谷町育ち。デカン大学院大学考古学学科 Ph.D. 課程修了（Ph.D.）。日本学術振興会特別研究員PD（東京大学東洋文化研究所）、人間文化研究機構総合人間文化研究推進センター研究員を経て、2022年より現職。専攻は南アジア考古学、比較考古学。近著に『考古学の黎明—最新研究で解き明かす人類史』（光文社新書・左写真）がある。